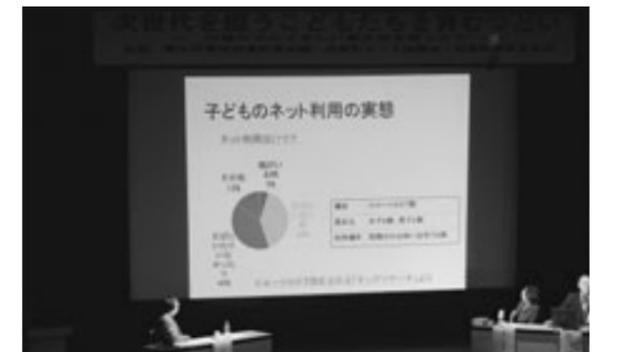


なのです。電話としての利用よりもはるかにインターネット端末としての利用が多いのです。電子メールを中心に着メロ・待ち受け画面、アイドル画像、音楽・芸能・映画・スポーツなどの情報や、ゲームから出会い系サイトや掲示板といったサイトの利用が多いことがわかっています。要するに高価な遊び道具なのです。

ケータイはインターネット端末ですから、良く考えて与えなければいけません。実際に、これらのサイト利用に関係した事件も次々と起きています。

インターネットの有害情報環境のレベルは、テレビ、映画などの有害番組とは比べようもないほど悪質です。このような現実を直視すれば「持たせて安心」とばかりは言っていないはずです。



▲鬼の館でケータイの危険性についてシンポジウムを開催(2月3日)

### ネット社会は自己責任、最後は親の責任

子どもがパソコンやケータイを使う時、それは、親の責任で子どもに一時的に貸しているものです。家庭や地域社会のルールやマナーを守るのは当然であり、親は社会常識を子どもに教え、守らせる義務と責任があります。最悪の場合、親が責任をとる覚悟が必要です。

伯耆町の小中学校では、携帯電話の持ち込みと学校活動での使用を禁止しています。(特別な事情がある場合には各学校にお問い合わせください。)

### 小中高生のケータイ再考シリーズ①

## 子どもの安全は、地域の大人の目で守りましょう

### 携帯電話を子どもに買い与えるのは日本だけ!

今や、日本の高校生の携帯電話所有率は95%、中学3年生でも54%が所有(平成16年 全国PTA協議会調査)しています。伯耆町では、中学3年生で25%、小学6年生で18%(平成19年4月 学習状況調査)が所有しています。

これは、日本と同じようにインターネットや携帯電話が普及している欧米諸国や韓国などにはない現象です。あるアメリカの研究者は、「なぜ日本の親は携帯電話を競って子どもに買い与えるのか? アメリカでは十代の子に使わせていない。子どもには必要ない。」と言いつつ切ります。

現にPTAなどの調査では「子どもにせがまれたので買い与えた。」という理由が88%、次いで「塾や部活動等、子どもの送り迎えや連絡に便利。」「居場所がわかり、持たせると安心。」と続きます。日本では、このような理由で高校生ばかりか中学生や小学生にまで携帯電話が急速に普及しています。

インターネットや携帯電話は上手に正しく使うと、私たちの生活や仕事に大変役立つ便利な道具です。しかし、使い方を誤ると、又は悪意を持って使うと大変危険な道具にもなります。

### ケータイは持たせて安心? 安全?

携帯電話を子どもに買い与える大人の意識は、「動く公衆電話」という認識です。

しかし、子ども達の認識は違います。インターネットやメールがいつでもできる「コンパクトなコンピューター・・・“ケータイ”」

◆パソコン・ケータイの有害情報アクセス制限については、次のホームページをご覧ください。

(財)インターネット協会 フィルタリング情報ページ  
<http://www.iajapan.org/rating/>

(社)電気通信事業者協会 携帯3社の有害サイトアクセス制限サービス  
<http://www.tca.or.jp/>

【問合せ先】伯耆町教育委員会事務局 総務学事室 ☎62-0927

## まちのわだい

### 区長協議会並びに 部落代表者合同会議開催

1月30日、農村環境改善センターで区長協議会並びに部落代表者合同会議が開催されました。

この会には、各集落の代表者ら約100人が出席し、町県民税と国民健康保険税の納付回数の変更など9事業について各事業の担当課長から説明を受けました。また、この日は、新たな集落代表者組織の設立に向けた協議も行われ、4

月に向けて新組織の準備を進めていくことが決まりました。



▲会議の様子(農村環境改善センター)

### 柔道で親睦深める 小さな柔道家たち

第3回伯耆町柔道大会開催

1月27日、溝口武道館で第3回伯耆町柔道大会が開催されました。

この大会は、西伯郡内の柔道教室に通う小中学生の交流を深めようと開かれたもので、岸本、溝口、大山の柔道教室から約70名が参加し、団体戦と個人戦が行われました。

この日、外は雪のちらつく寒い一日でしたが、会場内には子どもたちの気合いの入ったかけ声が響き、熱戦が繰り広げられていました。



▲熱戦を繰り広げる小さな柔道家

### 心豊かでたくましい青少年を育てよう

次世代を担う子どもたちを育むついで開催

2月3日、鬼の館ホールで次世代を担う子どもたちを育むついでが開催されました。

このついでには、青少年の健全育成のため青少年育成伯耆町民会議など町内の教育団体により開催され、スクールリーダーにより地域での活動が紹介されたほか、岸本中学校と溝口中学校の生徒が「青少年の社会参加について」をテーマに自らのボランティア体験を語りました。

また、「みんなで考えよう 子どもたちとメディアの社会」と題してシンポジウムが開かれ、鳥取県携帯・インターネット推進委員会から携帯電話やインターネットの危険性について実例発表がありました。シンポジウム終了後、岸本風神太鼓や鬼面太鼓振興会の子ども達による太鼓の演奏など、町内の団体による実践発表が行われました。



▲地域での活動を紹介する有馬さん(スクールガードリーダー)



▲岸本風神太鼓の子どもたち